

2018 年度ハンググライダー新人戦&トーイング講習会

競技規定

1: 後援大会

JHF、JSFF の後援大会とする

2: 参加資格

JHF フライヤー会員証が有効な者、JHF 技能証 HG A 級以上 B 級以下の者、日本学生フライヤー連盟に加盟している者、各自の指導教員に参加許可を得られた者、心身共に健康な者、新人戦未出場の者、高高度フライト 100 本以内の者

3: 参加機体

F.A.I. クラス 1 に限る。使用機体は原産国の運用限界が明記された物とする

4: 参加機体の変更

原則として、同機種・同サイズとする

破損により修理不能の機体変更は、競技委員長の判断により他機種・他サイズのものに変更することができる

変更の際は、競技委員長にその旨を伝え、機体検査を受けること

5: 装備

ヘルメット、パラシュート(180日以内(2018年9月5日以降)にリパックされたもの)、サブライン、ロック付きカラビナを必ず装備すること
飛行中はスカイレジャー無線を使用する

6: タスクの成立及び大会成立

- ・タスクの成立: 選手全員少なくとも 1 本フライトできた場合成立とする。
- ・大会の成立: 大会の成立条件は、次の 2 項目(I, II)が共に達成されたときである。
I. タスクが少なくとも 1 本は成立する。 II. 出場者数が 3 人以上である。

7: 順位の決定

各フライトでの得点を 14 項の得点計算方法によって決定し、その日の最も点数の高いフライトの点数を採用し、2 日以上競技が成立した場合、各日の最高点の合計した点数を順位決定に採用する。ただし、点数が同列の場合、ターゲットとの距離の近い方を上位とする。

8: 大会役員の権限

大会中は、大会役員の指示に従わなければならない

競技に支障を来す行為をした選手は、大会役員の判断でその日のフライトを失格或いは大会失格とする場合がある

9: フライト失格

雲中飛行・飛行禁止空域フライト・空中接触・フライトルール違反の他、危険な飛行と判断される場合そのフライトを失格とする場合がある

10: 大会失格

危険行為・不正行為・飛行禁止空域内ランディング・大会規定に違反した選手は、大会役員会に諮り大会失格とする場合がある

11: 事故及び損害賠償

大会期間中、万一事故・傷害や損害が生じた場合、大会規定・エリアルールに則り本人の責任に於いて速やかに処置し、本部に報告すること

又、主催者や大会関係者に対して責任追及、損害賠償などの請求を決して行わないこと

12: 抗議

抗議申し立ては、トラブル発生後一時間以内に文書で供託金 20,000 円を添えて競技委員長に提出すること

13: 公式掲示板

公式掲示板を大会本部及びテイクオフに設置し、当日のフライト内容などを発表するので、選手は公式掲示板を確認すること

14: 得点計算方法

2018 年度 HG リーグ 2nd クラス競技規定に準拠する得点計算を行う。

- ・最初に身体の一部が接地してから安全に停止するまでの全軌跡中最もターゲットから離れた点とターゲット間の距離を計測する。
- ・計測は 1cm 単位で行う。
- ・計測は最大 3000cm まで行い、それよりも離れていた場合は距離得点を 0 点とする。

得点計算

a) 距離得点

ターゲットからの距離を D とすると、距離得点 P_t は
 $P_t = 700 \times (1 - D(\text{cm}) \div 3000(\text{cm}))$ とする。

b) 合計得点

合計得点 P は $P = (P_t + S_b) \times S_c$ とする。

ただし S_b (セーフティボーナス) : ベースバーも膝もつかず両足で立った場合 300
ベースバーが地面についたが両足で立った場合 200
その他の場合 0

S_c (セーフティ係数): 通常 1

ボディラン, ノーズが地面に触れた場合 0.5

身体や機体を損傷した場合 0

※細かな判断は大会運営側に委ねられる

15 : ハラスメント規定

日本学生フライヤー連盟ハラスメント規定が適用される。